科目ナンバリング	U-LAS01 10006 LJ38				
授業科目名<英訳>	東洋史II Oriental History II		担当者所属職名・氏名	人間・環境学研究科 教授	辻　正博
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	歴史・文明(基礎)	使用言語	日本語
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・開講期	2026・後期	曜時限	月2/月3	配当学年	全回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

「唐帝国とアジア東部の国際情勢」

唐代の中国は、史上最も光輝にあふれていた時代の一つであると一般には認識されている。しかし実際には、唐帝国と隣接する諸勢力とのあいだに、外交的・政治的・軍事的緊張関係がほぼ一貫して存在し、帝国はその微妙なバランスの上に立って繁栄を保ってきた。

この講義では、唐が成立する7世紀初めから、衰退に向かう9世紀までの時期について、唐とアジア東部（東アジアのみならず北アジア・中央アジアを含む広範な地域を指す）に存在した諸勢力との外交・政治・軍事的関係を通観する。講義を通じて、受講生のみなさんが新たな歴史観を感得することを期待している。

[到達目標]

現代においても、日本が最も密接な関係を有する地域はアジア東部である。古代の日本が朝鮮半島や中国大陸と本格的にコンタクトを取り始めた時代、地域最大の国家であった唐帝国と周辺の諸勢力はいかなる関係にあったのか。この講義では、高校の世界史教科書では触れられなかった視点を補いつつ、唐帝国とアジア東部の国際情勢について理解を深めることを目標とする。広い視野で歴史を見ることにより、多面的に歴史を理解することの大切さ・面白さを体得してほしい。

[授業計画と内容]

基本的に以下のプランに従って講義を進める。但し、状況に応じて内容を適宜変更することがある。なお、第1回を「ガイダンス」にあて、講義のねらいと概要について説明を行う。第2回以降は、以下のテーマについて、おおむね1～２週を費やす予定である。フィードバックを含めて全15回の講義を行う。

1．隋末の中国と東突厥
2．東突厥の解体―「世界帝国」の出現
3．唐帝国の中央アジア統治
4．唐王朝と東北アジア（１）―朝鮮三国と唐帝国
5．唐王朝と東北アジア（２）―倭・日本と唐帝国
6．東突厥の復興と武周王朝
7．羈縻体制から節度使体制へ―玄宗時代の国際情勢
8．帝都長安の繁栄とソグド人
9．安史の乱と国際情勢の激変（１）―ウイグル
10．安史の乱と国際情勢の激変（２）―吐蕃
11．9世紀アジア東部の情勢
まとめとフィードバック

[履修要件]

本講義は、同一内容のものを週２回開講するので、いずれか１つのみを履修登録すること

東洋史II(2)へ続く↓↓↓

東洋史II(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点50%（課題・クイズ40%、出席と参加の状況10%）＋期末レポート試験の成績50%

[教科書]

冨谷至・森田憲司編 『概説中国史（上）―古代・中世』（昭和堂）ISBN:9784812215166

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

本学の学習支援システムを通じて配布される講義資料を、事前にダウンロード・印刷して読み込んでおくことを強くお勧めします。

[その他（オフィスアワー等）]

文系・理系を問わず、向学心に溢れた皆さんの聴講を歓迎します。

[主要授業科目（学部・学科名）]

総合人間学部